

会 議 録

会議の名称	平成30年度 第2回 大内まちづくり協議会
開催日時	平成31年3月22日(金) 午後2時00分～午後3時40分
開催場所	大内農村環境改善センター ホール
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	同 上
会議次第 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 案件 (1)平成31年度予算および主要事業について (2)大内総合支所各課報告事項について (3)質疑・応答 (4)「提言書」報告・全体協議 (5)その他 4. 閉会	
会議の経過	別紙のとおり

大内まちづくり協議会出席者名簿

【大内まちづくり協議会委員】

役職	氏名	出欠
会長	佐々木 廣二	○
副会長	伊藤 廣美	○
委員	東海林 建夫	○
委員	小野 勇	○
委員	佐々木 勝	○
委員	佐々木 良行	○
委員	加藤 秀郎	○
委員	佐々木 好子	—
委員	堀川 千穂美	○
委員	伊藤 章江	—
委員	伊藤 亜希子	—
委員	東海林 聖子	○
委員	小松 恒	○
委員	東海林 菊子	○
委員	正木 健太郎	○
委員	伊藤 久	○
委員	澤木 静子	○
委員	東海林 一郎	○
委員	木原 由美子	○
委員	齋藤 恵美	—

【行政側】

所属	役職	氏名
大内総合支所	総合支所長	加藤 安明
大内総合支所	市民サービス課長 兼下川大内出張所長 兼上川大内出張所長	堀川 鋼毅
大内総合支所	建設課長	畠山 俊則
教育委員会	大内教育学習課長 兼公民館長	佐々木 洋和
大内総合支所	市民サービス課参事 兼課長補佐	太田 純哉
大内総合支所	市民サービス課振興班長	鈴木 司

*出席委員 16名

第2回 大内まちづくり協議会 会議の経過（要旨）

平成31年3月22日（金）

午後2時00分～午後3時40分

1. 開会

司会

平成30年度第2回大内まちづくり協議会を開会し進行。

開催要件報告

本日の出席委員について報告。

出席委員16名、条例第7条第2項の開催要件である、委員20名の1/2以上の開催要件を満たす旨を報告。

2. あいさつ

会長

まちづくり協議会会長あいさつ

3. 案件（1）

会長進行

条例第7条第1項の規定により、会長が会議議長として進行。

協議の案件（1）平成31年度予算および主要事業について、支所長より説明。

3. 案件（2）

市民サービス課

総合支所各課からの報告等として、市民サービス課長より、コミュニティバスの4月1日改正について報告。

沿線町内会の運行検討会や行政懇談会、町内会長会で要望による素案を説明してきたが、2月の地域公共交通活性化協議会で承認された。ダイヤ改正概要としては、

- ・及位、葛岡西里、平岫への羽広・軽井沢線の乗り入れ。往復一便増便する。
- ・高尾線回送便や予約便を定期便に一便増やし10便にする。
- ・大小屋、代内の予約便を定期便へ。一週間に3回曜日別に運行する。
- ・極端に利用が乏しい便は廃止となる。

・羽後交通線でも土・日・祝日の利用が殆ど無い路線が運休となることから、同様に、羽広・軽井沢線と中田代線の朝の始発便と夜の最終便が廃止となる。

支所だよりで周知し、時刻表を車内や支所内、バス停留所に掲示する。

4年間の委託契約を地元業者と締結。また、高尾線ワゴン車、中田代線マイクロバスを更新予定（マイクロバス通称「ポンチョ」は全席前向きの車両とする計画）。

交通空白地域を埋めていきたいが、利用者が乏しい場合は継続が難しくなる。今は不要でも将来的な利用者を含め、利用者の増加を皆さんにも勧めていただきたい。

教育学習課

北部学校給食センター建設事業について、ボーリングを実施中。改善センター側を建設車両が運行する。保育園や環境改善センターで行事の際は配慮するが、住民のご理解ご協力もお願いしたい。

3. 案件（3）

質疑・応答

（質疑 特に無し）

3. 案件（4）

報告

「提言書」報告・全体協議について

* 振興防災専門部会

「災害時の避難対応について」など3点にまとめた。提言内容を朗読、概要説明。

また、会議資料『自主避難所開設手順と避難対策』について説明。

水害のあった松本町内会をケーススタディとして作成。自主避難場所の集会所に

避難した住民が40人もいたため、指定避難場所へ移動も出来ず、その場で対応が求められ、自主防災組織住民だけでなく市職員の協力が必要だった。短時間で河川水位が増高する傾向にあるようなので、雨量が増す降雨の際は、避難が頻繁な町内会には、もう少しきめ細かな避難計画を示していただくよう提言したい。

* 産業建設専門部会

「ぽぽろっこを中心とした観光案内」についてが話し合いの中心となり、先ずは、地域内の観光場所を視察した。カタクリ群生地では、その群生地を作った住民の声、樹齢400年のかすみ桜では樹勢等の話題があった。その上で『行きたくなる大内観光案内ツールの取り組み』をテーマとした。以下提言書を朗読。

* 福祉教育専門部会

前年度からのテーマを協議・検証しながら、「地域コミュニティの構築」が話し合いの中心となった。以下、提言書を朗読。

さらに、人材育成が重要であり、また、産業建設部会でも、ぽぽろっこの名前が何度も出てきている。周辺の複数施設を含めた一体的かつ継続的な取り組みが必要。提言書2頁記載の「第1条市民と行政の協働…」とあり、課題は出てきているので、行政で再検討してほしい。

全体協議

委員 A

観光協会が、独立採算制を検討しているが、提言をしても実際にヤル人がいないと進まない、専門的にヤル人が組織が必要と考える。皆の意見を聞きたい。

(委員から意見は無し)

支所長

行政で出来ること、団体で出来ること、協働で出来ることがある。行政で出来ることは出来ることから対応する。予算が伴う場合は要求していききたいし、団体にも呼びかけていきたい。

委員 A

観光協会もまじめに取り組まなければならない時期に来ている。ぽぽろっこにも協会に入ってほしいので、行政で後押しをしてほしい。

副会長

産業建設専門部会のパンフレットはどのような状況か。

部会長

空港には、市町村の観光パンフレットがある。本市のモノは小さいし粗末、ぽぽろっこに小さい観光案内看板があるが古くなった。新しくする予算が無いか。また、ぽぽろっこに観光案内所が有っても良いのではないか。

市民サービス課

任期2年で提言いただき、市でやるべきことは市でやっていきたい。この協議会は、地元住民や民間団体でどのようにやっていくか、団体を支援して、どういったモノが作れるか、であり、産業建設部会でパンフレットを作るが、市の観光パンフに無い部分を掘り起こしている。本荘まちづくり協議会の例だが、数人で発起し、地域づくり推進事業を活用して観光パンフを作っている。そのようなことも参考にしていくことになると思われる。

観光案内所については、観光協会と行政等が協力して取り組むことになると思わ

れる。これからも、あきらめずに提言してもらいたいのでお願いしたい。

委員 B 駅舎が入っている PR 館がある。商工会が抜け空き室となったが、観光案内的な対応を検討してはいかがか。また、人材育成、団体育成に力を入れてほしい。岩谷地区では、今昔懇談会を組織し、補助金を活用して昔の町並みを残そうと取り組んでいる例もあるが、住民には限界がある。

また、これまでの話し合いから、3 部会の提言があるが、大内独自の提言として、ぽぼろっこ周辺の観光に力を入れてほしい。

市民サービス課 商工会は、PR 館から総合支所庁舎内に移転する計画。併せて、岩谷駅の乗車券類の切符販売業務委託も契約満了となり、JR とともに協議の上、ぽぼろっこに委託する計画。ぽぼろっこには、その業務のほか、周辺の環境美化、利用者の利便性を図る等も依頼することとなるため、将来的に周辺の一体的な対応を図れればと思われるが、まちづくり協議会でも意見を出してもらいたい。

委員 A 今後のまちづくり協議会の方向性として、観光一点に絞って話し合ってはどうか。観光協会も市の方針で法人化して独立採算制を採れるような形を求められており、いろいろな意見をいただきたい。

市民サービス課 専門部会設置要綱を作り 3 部会で話し合ってきたが、一部会数人で話し合うため、なかなか、広く意見やアイデアが出なかった場合も有った。部会を 2 つにするとか、全体会で話し合うとか、この協議会で話し合ってもらいたい。たくさんアイデアが出るようにしていきたい。

委員 C 地域の子どもと地域の大人のつきあいが無くなってきている。保育園行事などで初めてつきあうような状態でもある。地域コミュニティに関する予算について今後はもう少し説明してもらえれば、協議会でも話し合うことが出来ると思われる。

ぽぼろっこの話についてだが、イベントをやるにあたり、やはりスタッフは苦勞する。誰かが苦勞しなければならない。また、桜堤や観光看板の前で記念撮影する人も増えた。注目はされてきているので、もう少し良くなればと思う。

委員 D 産業建設部会でパンフレットを作るということでアンケートを渡されたが、回答出来なかったのも、この場で報告したい。皆さんは観光というと、ぽぼろっこ周辺のことをいうが、私には違った考えがある。地元の中俣には自慢できるモノが 3 つある。先ずブナで、大学教授も見に来たことがある。次に、日本酒の「雪之茅舎」のラベルのモデルになった茅葺き屋根とシダレ桜がある。カメラ愛好家が毎年撮影に来るくらい魅力がある。そして、赤田の閑居様が作った地蔵が市内に 7 つあるが、その一つが中俣にあり、「由利長根の地蔵様」と呼ばれている。大内には 48 集落有り、各集落には、観光とは呼べないまでも魅力が必ずあるはずなので、例えば、「おらほの集落の自慢コ」として取り組んだらどうか。ぽぼろっこ周辺と別の観点でも、やっても良いのではないか。

副会長 そのような情報をテレビに出してほしい。そして全国放映されれば人が集まると思う。産業建設部会のアンケートは私も回答したが、その結果が今回出ると思った。

建設課 まだまとまっていなかったので今回は出せなかった。

副会長 まとまっていなくても出してほしかった。皆さんの意見や考えを聞きたかった。

支所長 その通りだと思う。今後は、前もって意見をもらっているのであれば、未完成でも提出して話し合うようにしていきたい。

委員 C 自分たちが若い頃は青年会等でやってきたが、今は無くなったのか。また窓口はどこか。どのように取り組んでいくのか。

教育学習課 当課の所管。青年会は現在は活動していないため自然消滅したと思われる。年代別バレーボール大会のような取り組みにも人が集まらなくなっている状況で、新たに組織化を目指しても難しいようである。一方、レクレーションとかサークル組織は活動しており、現在は、そちらに力を入れている。青年会等団体の立ち上げについては協議し方向性を定めていきたい。

会長 他に意見はありませんか。

委員 A 提言に一つ追加してもらいたい。

話題に出た、ぽぽろっこを核にしてキーポイントにした組織作りを目指すこと。今までは、行政主導だったが、今後は、地域に根ざした団体やグループを作るために、行政にも協力を、後押しをしてもらいたい。

委員 B 各専門部会毎に出された提言の他に、別枠で一つにまとめた提言は作れないのか。ぽぽろっこ周辺のこと、各町内会の隠れた地域資源の掘り起こしのことについて。

市民サービス課 3 専門部会制で提言を頂いている経緯があるため、出来れば新たに出された内容について追加するならば、それぞれの部会長の責任で追加してもらいたい。

委員 B それでは、産業建設部門の提言に追加することを提案したい。

会長 各部会長は、追加があれば早めに提言書に追加してください。

事務局は、追加版を委員の皆さんに送付し、意見を伺うなど再調整してください。そして再確認の上、最終的に市へ「提出」とする。宜しいでしょうか。

(異議無し)

3. 案件 (5)

会長 それでは次に移ります。「その他」として、何か発言があればお願いします

司会 本庁、総合政策課からの連絡事項などを説明。 ～ 以上で議事終了 ～

7. 閉会

支所長 加藤安明大内総合支所長より挨拶

平成30年度第2回大内まちづくり協議会を閉会。